

(平成30年1月時点版)

伊予市立伊予小学校

4年生社会科

「自然災害からくらしを守る」
指導計画（案）

小単元「自然災害からくらしを守る」

1. 本小単元の概要

【学習指導要領（平成 29 年 3 月公示）】

社会 第 4 学年

○内容

（3）自然災害から人々を守る活動について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア） 地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること。

（イ） 聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

（ア） 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現すること。

○内容の取扱い

（2） 内容の（3）については、次のとおり取り扱うものとする。

ア アの（ア）については、地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害などの中から、過去に県内で発生したものを選択して取り上げること。

イ アの（ア）及びイの（ア）の「関係機関」については、県庁や市役所の働きなどを中心に取り上げ、防災情報の発信、避難体制の確保などの働き、自衛隊など国の機関との関わりを取り上げること。

ウ イの（ア）については、地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできるように配慮すること。



我が国には豊かな自然環境があり、河川の自然環境との関わりに目を向け、河川が私たちにもたらしてくれる恩恵がたくさんあることを知る。

一方で、我が国の国土ではさまざまな自然災害が起こりやすく、自然災害の発生は、私たちの生命や、生活、産業に大きな影響を与える可能性があることを知る。

自然災害の発生は、私たちの生命や、生活、産業に大きな影響を与える可能性があることを知り、自然災害からくらしを守るため、国・県・市などが協力し、普段から災害へ備え（対策や事業を進め）や災害時に対応を行っていることなどを、伊予市を流れる重信川や過去に地域で発生した風水害を題材に調べ、私たちの生活や産業との関わりについて考える。

地域で想定される災害や災害から人々を守る活動を通じ、自分たちにできることなどを考え、選択・判断ができるようにする。

【捉えさせる内容とねらい】

①自然環境の恩恵がたくさんある一方で、我が国の国土ではさまざまな自然災害が起こりやすいこと

■日本の自然災害の概要（全体像）や身近な河川環境との関わりをつかむ。

- ・風水害（洪水氾濫・土砂災害）、津波災害、地震災害、火山災害、雪害、竜巻、かんばつなど
- ・身近な河川環境（河川利用、景観、動植物の生態など）

②自然災害から暮らしを守るため、国・県・市などが協力し、災害への備え（対策や事業）を行っていること

■風水害に着目し、公的機関などが行う平常時の備えと、河川環境の維持するために様々な取り組みが行われていることを捉える。

- ・平常時の備え：治水対策、河川パトロール、訓練など
- ・河川環境の維持：霞堤の環境再生、堤防の除草等

③自然災害から暮らしを守るため、国・県・市などが協力し、災害時の対応を行っていること

■風水害に着目し、公的機関などが行う災害時の対応を捉える。

- ・災害時：洪水予報や避難指示等の発令、避難誘導、救助活動、復旧活動など

④自分たちにできることなどを考え、選択・判断ができるようにすること

⇒風水害からさまざまな災害への展開

■防災の観点からよりよい国民生活の実現を目指す態度を育む。

- ・自然災害から地域を守る平常時・災害発生時の国・県・市などの取り組みの振り返り
- ・風水害に加えて、私たちがさまざまな自然災害に備えてできること

2.本小単元の構成

【第1時】
日本の自然災害の概要（全体像）と身近な河川環境の関わりをつかむ。

身近な川は豊かな自然により恩恵を与えてくれることもある。一方で、日本ではさまざまな自然災害が発生している。風水害では地形や気候が関係している。

【第2時】
公的機関などが取り組む平常時の備えを捉える。

風水害からの被害を減らすためにさまざまな対策があり、さまざまな人たちが連携・協力している。

【第3時】
公的機関などが取り組む災害時の対応を捉える。

風水害による生活や産業への被害を減らすために、さまざまな人たちが連携・協力している。

【第4時】
防災の観点からよりよい国民生活の実現を目指す態度を育む。

平常時や災害時の対策を振り返り、自分たち一人ひとりの備えやできることを考え実行しよう。

3.評価の目標

- 関心・意欲・態度** ……自然災害や河川環境について関心をもち、意欲的に調べることを通して、自然災害から地域を守ることの重要性や国民一人一人が防災意識を高め、協力することの大切さを考えようとしている。
- 思考・判断・表現** ……自然の恩恵を受けている一方で、我が国の国土ではさまざまな自然災害が起りやすいこと、その被害を減らすために国・県・市などが協力し、平常時の災害への備え（対策や事業）や災害時の対応がおこなわれていることや、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考え、調べたことや考えたことを適切に表現している。
- 観察・技能** ……我が国で起こるさまざまな自然災害や、その被害を減らすための国・県・市などの災害への備え（対策や事業）について、地図や統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用して具体的に調べ、調べた過程や結果をノートや作品にまとめている。
- 知識・理解** ……我が国で起こるさまざまな自然災害からくらしを守るために、国・県・市などが災害への備え（対策や事業）や災害時の対応を行っていることを理解している。

4.指導計画（4時間）

	学習活動・内容	指導のポイント
1	<p>〔自然災害の起こりやすい国土と河川環境がもたらす恩恵〕</p> <p>身近な重信川の河川環境（河川利用・景観・動植物の生態）について、人が集まる場所の特徴や行動のようすから、たくさんの恩恵を受けていることを知る。</p> <p>一方、重信川で風水害が発生した場合を題材に、我が国で起こる自然災害について調べ、我が国は国土の地形や気候とのかかわりで自然災害が起こりやすいことをつかむ。</p>	<p>重信川の上流域・中流域・下流域ごとに人が集まる場所の特徴や行動のようすと、各流域で起こりうる自然災害を、写真や図を活用し学習する。</p> <p>我が国で起こった自然災害の発生状況や、発生しやすい理由を、写真や図を活用し学習する。</p>
2	<p>〔自然災害から暮らしを守るために〕</p> <p>郷土の重信川で風水害が発生した場合を題材に、私たちの生活や産業への影響を考えるとともに、郷土の重信川を題材に風水害による被害を減らすために、普段から国や県、市などがさまざまな対策や事業を進めていることをつかむ。</p>	<p>自然災害の一つ、風水害による被害を減らすため、重信川で行われている対策や事業を学習する。また、このなかには河川環境の維持とも重なることがあることを学習する。</p> <p>公的機関の治水対策だけでは、災害（風水害）から地域を守れないことを気づかせるようにする。</p>
3	<p>〔もしも自然災害が起こったら〕</p> <p>郷土の重信川を題材に風水害が発生した時の関係機関の働きや連携について捉えることができる。</p>	<p>風水害発生時に働く組織や、日ごろから風水害による被害を減らすために働いている組織を知り、多くの人の働きによって安全なくらしが成りたっていることを学習する。</p>
4	<p>〔自然災害に備えてできることを考えよう〕</p> <p>これまでの学習を振り返り、自分たちの身の回りにも風水害などの自然災害が起こることを認識し、国民一人一人が日頃から防災意識を高めることが大切であることに気づく。</p>	<p>自分たちの住む街にある避難所や普段からの備えといった最低限必要なことを調べながら、風水害などの自然災害が発生した時に備えて自分自身にできることを考える。</p>

「自然災害のおこりやすい国土と河川環境がもたらす恩恵」(1/4)

1.本時の位置づけ	4年生社会「自然災害からくらしを守る」(4全時間)の導入の時間として位置づける。
2.指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・重信川の上流域・中流域・下流域それぞれの特徴や河川利用について考える。 ・自然(重信川)は、私たちのくらしを豊かにしてくれるときもあるが、災害時には私たちのくらしに被害をもたらすこともある。 ・自然災害には、風水害(洪水氾濫・土砂災害)のほかに、地震災害、津波災害、火山災害、雪害、竜巻、かんばつなどがある。 ・それぞれの自然災害には、自然災害が発生する要因として、国土の地形や気候が関係している。 ・私たちの住んでいるところには、全国でも有数の急流河川である重信川が町の中を流れている。 ・大きな洪水(風水害)が発生した際には伊予市も浸水してしまう危険性があり、私たちの生活や産業などに多大な影響を及ぼす可能性がある。
3.学習方法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT(大型TV)の活用 ・グループ単位での学習
4.本時のねらい	<p>重信川との関わり方について考え、重信川がもたらしてくれる恩恵について知る。</p> <p>日本で発生しているさまざまな自然災害について知る。</p> <p>自然災害(風水害)の発生と国土の地形や気候との関係を考える。</p> <p>地形や気候から、伊予市の自然災害(風水害)の特性を考える。</p>
5.教科書(東京書籍「新編社会3・4下」)における振替ページ	<div style="border: 1px solid black; padding: 20px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>「自然災害のおこりやすい国土 と河川環境がもたらす恩恵」 (1/4) 教科書該当ページ</p> </div>

6.学習の過程

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書参照）
<p>導入 (10分)</p>	<p>①重信川流域の航空写真を見て、身近に重信川が流れていることを知り、普段遊びに行く場所や、遊ぶ内容を通して本時のめあてをつかむ。</p> <p>②重信川の上・中・下流域のようすと関わり方について考える。</p> <p>【上流域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しらいの滝の景観。 ・キャンプ場、釣堀。 <p>【中流域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泉（伏流水の湧水箇所）の利用と豊かな動植物の生態（ビオトープ）。 <p>【下流域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広大な干潟（日本の重要湿地 500）。 ・野鳥の楽園（シギ・チドリ類重要渡来地域）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT（大型 TV）を活用して、重信川流域の航空写真から川が身近にあることに気づかせる。 ・ 児童が遊びに行ったことがありそうな場所を整理する。 ・ 重信川流域の人が集まる場所の特徴や人々の行動から、河川環境がもたらしてくれる恩恵について気づかせる。 	<p>○解説書 P.1～P.4 「豊かな自然と自然災害」 「さまざまな自然災害」</p>
<p>めあて：わたしたちの身近なところや日本で起こる自然災害は、なぜ起こるのか、わたしたちの生活や産業にどのような影響がでるのか考えよう。わたしたちの近くを流れる重信川において、人が集まる場所はどのような環境か、調べよう。</p>			
<p>展開 (30分)</p>	<p>③重信川流域（または他地域）で過去に起こった自然災害を参考に、重信川の上・中・下流で起こりうる自然災害を考える。</p> <p>「自然災害時」…風水害発生後（時）の地域</p> <p>④「豊かな自然」と「自然災害」の様子を比べることを通して、本時のめあてをつかむ。</p> <p>「豊かな自然」…風水害発生前の地域（普段の利活用状況）</p> <p>⑤自然災害の発生と国土の地形や気候との関わりについて考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT（大型 TV）を活用して、重信川で起こる可能性のある自然災害がわかるようにする。 ・ 自然には、恩恵と被害の両面があることを気づかせる。 ・ 重信川流域に該当する地形・気候条件を考え、雨が降ると短時間で下流部に到達してしまうことに気づかせる。 	<p>○解説書 P.1～P.4 「さまざまな自然災害」 「豊かな自然と自然災害」</p> <p>○解説書 P.5 「風水害とは・・・」</p> <p>○解説書 P.7～P.12 「我が国で風水害の発生が多い理由」</p>

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書参照）
	<p>⑥重信川流域で自然災害が起こる理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨は少ないが、川に降った水は短時間で下流部に到達 ・下流部の土地は川よりも低い <p>⑦日本で発生するさまざまな自然災害を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・重信川流域は、風水害（洪水）が起こると被害が大きくなりやすい地域であることに気づかせる。 	
<p>まとめ (5分)</p>	<p>⑧ふりかえりをノートにまとめさせる。</p> <p>⑨まとめを伝える。</p>		
<p>まとめ：わたしたちの身近なところや日本で起こる災害は日本の気候や地形などが関係している。重信川で人が集まるところは自然がゆたかで、きれいなところであるが、自然はさまざまなめぐみを与えてくれる一方、災害が起こることもある。自然災害が起こるとわたしたちの生活や産業に大きな影響がでる。</p>			

「自然災害からくらしを守るために」(2/4)

1.本時の位置づけ	4年生社会「自然災害からくらしを守る」(全4時間)の展開の時間として位置づける。
2.指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・1時間目で、地形と気候が自然災害に深く関わっていることが分かり、重信川流域は風水害(洪水)が起こるとその周りで被害が大きくなりやすい地域であることが分かった。 ・大きな洪水が発生した際には伊予市も浸水してしまう危険性があり、わたしたちの生活や産業などに多大な影響を及ぼす可能性がある。 ・風水害による被害を減らすため、重信川流域では堤防、ダムなど数多くの対策(河川整備)が実施されている。 ・万が一に備えての、日々の管理に関する仕事(河川管理)を紹介する。 ・霞堤は洪水の被害を減らすための機能を持っている。泉の環境(河川環境)を整えること(自然再生事業)も重信川では行われている。
3.学習方法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT(大型TV)の活用 ・グループ単位での学習
4.本時のねらい	<p>自然災害の一つ、風水害の被害を防ぐための対策を知る。 対策の実施のためには、多くの協力が必要であることを考える。 対策後も万が一に備えて、河川を管理していることを知る。</p>
5.教科書(東京書籍「新編社会3・4下」)における振替ページ	<div style="border: 1px solid black; width: 300px; height: 250px; margin: 0 auto; background-color: #e0e0e0; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <p style="text-align: center;">「自然災害からくらしを守るために」 (2/4) 教科書該当ページ</p> </div>

6.学習の過程

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書参照）
導入 (10分)	①前回の授業のふりかえりを行う。 ②重信川で過去におこった洪水(平成29年9月台風18号)についての写真を見せる。 ③めあてをつかむ	<ul style="list-style-type: none"> ICT (大型 TV) を活用して、治水対策がわかるようにする。 	○解説書 P.13 「重信川で起きた過去の風水害」
めあて: 風水害が起こるとわたしたちの暮らしにどのような影響がでるのか調べよう。風水害による被害をへらすために、ふだんのようなことが行われているのか調べよう。			
展開 (30分)	④重信川の名前の由来について知り、以前はよく氾濫していたことを想像する。 ⑤風水害が起こると、私たちの暮らしにどんな影響があるかを問いかける。 <ul style="list-style-type: none"> 町や家が浸水する。 道路や橋が使えない。 電気やガスが使えない。 農作物などが被害を受ける。 工場が止まる。 ⑥風水害から暮らしを守るために国がどのような対策(河川整備)を行っているか問いかける。 ●予想される回答: 堤防、ダム、霞堤 ⑦風水害による被害を減らすために、ふだん、どんな人々が働いているか(河川管理など)調べる。 ⑧泉や霞堤などの河川環境を整えるために、どのようなことがなされている(自然再生事業)のかを学習する。	<ul style="list-style-type: none"> 風水害が私たちの生活や産業に大きな影響を与えることを気づかせる。 風水害による被害を減らすために公的機関が関わっていることを捉えさせる。 堤防以外にも治水対策があることに気づかせる。 	○解説書 P.14～P.17 「国や市で行われている治水対策」 ○解説書 P.18 「風水害に備えるための仕事内容」

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書参照）
まとめ (5分)	⑨ふりかえりをノートにまとめさせる。 ⑩まとめを伝える。		
<p>まとめ：風水害などの自然災害が起こるとわたし達の暮らしに大きな影響がでる。風水害などの自然災害による被害を小さくするために、ふだんからさまざまな対策が行われ、人びとが協力して安全を守っている。それによって河川環境が整い、生き物の生息に適した場となり、子どもたちも遊ぶことができる。</p>			

「もしも自然災害が起こったら」(3/4)

1.本時の位置づけ	4年生社会「自然災害から暮らしを守る」(全4時間)の展開の時間として位置づける。
2.指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・2時間目で、風水害による被害を減らすため、重信川流域では堤防、ダムなどの対策(河川整備)が実施され日々の管理に関する仕事(河川管理)をしている人々がいること、多くの人々が協力しながら、万が一に備えていることがわかった。 ・しかし風水害を完全に防止することはできないため、風水害が発生した際に被害を小さくするために働く人々がいること(水防活動、応急復旧など)を紹介する。 ・地域の住民で組織された消防団(水防団)が、人命や財産への被害を防止あるいは軽減する活動を行うことを知る。 ・風水害の被害を小さくするために働く人を知ることで、自らもできることを考えるきっかけを与える。
3.学習方法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT(大型TV)の活用 ・グループ単位での学習
4.本時のねらい	<p>風水害が発生した場合の関係する人々の働き(水防活動、応急復旧)を知る。</p> <p>風水害の被害を最小限にするための仕事の内容について知る。</p>
5.教科書(東京書籍「新編社会3・4下」)における振替ページ	<div style="border: 1px solid black; width: 300px; height: 200px; margin: 0 auto; background-color: #e0e0e0; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <p style="margin: 0;">「もしも自然災害が起こったら」 (3/4) 教科書該当ページ</p> </div>

※伊予市洪水ハザードマップは、伊予市のHPよりダウンロードすることができます。

※重信川の浸水想定区域図は、松山河川国道事務所HPよりダウンロードすることができます。

6.学習の過程

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書）
導入 (10分)	①前回の授業のふりかえりを行う。 ②重信川で過去におこった洪水(平成29年9月台風18号)についての写真を見せる。 ③めあてをつかむ めあて：風水害が発生した場合、被害を減らすために、どのようなことが行われているのか調べよう。		○解説書 P.13 「重信川で起きた過去の風水害」
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちを班にして、イラスト資料を配布する。 ④風水害による被害を減らすために、どんな人々が働いているか(応急復旧など)調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・イラストの中に、職業ではなくはたらく人々がいることを気づかせる。 ⑤地域の住民で組織されている消防団(水防団)の役割や対応内容等を学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・風水害による被害を最小におさえるために、どんな人が働いているかを気づかせる。 	○解説書 P.19～P.21 「風水害が発生した際に働く人々」
まとめ (5分)	⑥ふりかえりをノートにまとめさせる。 ⑦まとめを伝える。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を振り返り、多くの人たちの働きで自分たちの安全な生活が保たれていることに気づかせる。 	まとめ：風水害などの自然災害の被害を小さくするためにさまざまな人びとが協力して安全を守っている。

「自然災害に備えてできることを考えよう」(4/4)

1.本時の位置づけ	4年生社会「自然災害から暮らしを守る」(全4時間)のまとめの時間として位置づける。
2.指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・「自然災害から暮らしを守る」のまとめとして、これまでの学習の振り返りや、日ごろから防災に関して関心を持つことの大切さについて考える。 ・3時間目では、風水害などの自然災害の被害を小さくするためにさまざまな人びとが協力して安全を守っている人達がいることが分かった。 ・もしもの時に備えて、自分たちでできることは、風水害に関係して働く人々に連絡することや、避難所の場所や連絡先を知ること、安全な避難の方法を知ること、防災に関する情報を知ること、避難の際に必要な持ち物を用意しておくこと等がある。 ・自分たちの住む場所の避難場所等を確認する活動や、自分たちにできることを話し合うことで、自助・共助の意識を高める。 ・地域の住民で組織された消防団(水防団)や自主防災組織が、人命や財産への被害を防止あるいは軽減する活動を行うことを知る。 ・風水害以外の自然災害についても同様のことが言え、自分たちでできることを考えることが重要である。
3.学習方法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT(大型TV)の活用 ・グループ単位での学習
4.本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・風水害時に自分たちができることを考え、万が一に備えて避難所や必要な準備を調べることができる ・風水害に限らず、自然災害に備えることが大切であることに気づくことができる。
5.教科書(東京書籍「新編社会3・4下」)における振替ページ	<div style="border: 1px solid black; padding: 20px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>「自然災害に備えてできることを考えよう」 (4/4) 教科書該当ページ</p> </div>

6.学習の過程

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書）
<p>導入 (10分)</p>	<p>①これまでの授業を振り返る。 ・日本は気候条件と地形条件により自然災害が起こっている。 ・自然災害を防止するために、国や県、市などがさまざまな対策を行っている。 ・自然災害の被害を小さくするためにさまざまな人々が活動し、私たちの安全を守っている。 ②めあてを伝える</p>	<p>簡潔に1～3時間を振り返る。 (1～3時間のそれぞれの時間のまとめを発表させる。)</p>	
<p>めあて：自然災害に備えて自分たちができることは何だろう。</p>			
<p>展開 (30分)</p>	<p>③チェックシートを配布し、普段から災害に備えてできていることを確認する。 ④子どもたちを班に分け、ハザードマップを使って、避難場所を調べさせる。 ⑤地域の住民で組織されている自主防災組織の役割や対応内容等を学習する。 ⑥解説書 P.26 の「風水害に対する心がけ・緊急時の心がけ」を配り、災害に備えて、普段から家庭でできることの大切さを伝える。 ⑦風水害が発生した際に自分たちができることを班で話し合い発表する。 ●予想される回答 ・避難所に避難する ・テレビやラジオで天気や水位を確認 ・一人で行動しない ⑧風水害以外の災害への備えとの共通点を考え、自然災害には備えが必要であることを気づかせる。</p>	<p>・備えのほとんどが地震などの他の災害にも重要なことに気づかせる。</p>	<p>○解説書 P.22～P.27 「風水害に対する心がけ」 ○伊予市洪水ハザードマップ (○伊予市ため池ハザードマップ) ○解説書 P.30 「重信川浸水想定区域図」</p>

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書）
まとめ (5分)	⑨ふりかえりをノートにまとめさせる。 ⑩まとめを伝える。 <div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; padding: 5px; margin-top: 10px;"> まとめ：風水害に限らず、自然災害に備えて、普段から自分にできる備えを行うことが大切である。 </div>		

こくごとうつうしょう しこくちほうせいびきょく
国土交通省 四国地方整備局

まつやまかせんこくどうじむしょ
松山河川国道事務所

〒790-8574 愛媛県松山市土居田町 797-2

TEL. 089-972-0034 (代表)

<http://www.skr.mlit.go.jp/matsuyam/>